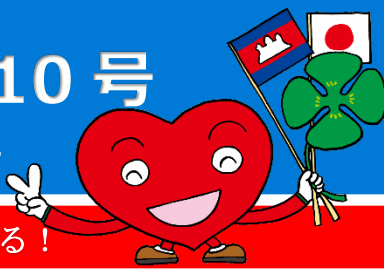


NPO Srolanh Project since2010

スロラニユ通信 第10号

平成30年1月30日発行

カンボジアの支援の必要な子ども達の「生きる」を支援する！



チョムリアップスオ！ご挨拶

NPO 法人スロラニユプロジェクト代表 飯塚由美子



昨年度は大変お世話になりました。本年もよろしくお願いいたします。

NPO法人スロラニユプロジェクトも地道な活動ではありますが、気がつくとも8年目に入りました。当初4人から始まったプロジェクトも頼もしいメンバーが加わり歯科支援・救急救命・スロラニユ小学校継続支援とそれぞれの活動が前進しています。設立当初メンバーの目的とする障がい児者支援についても年2回のデイサービスや、栄養のある食材支援、相談支援など継続してきたため保護者の方達との信頼関係も深まっています。ただ、この数年の間に亡くなられた子ども達も4名いらっしゃいました。そして学校の勉強について行けず、不登校になる子ども達も目の当たりにしました。カンボジアでは、障がい児者支援の前に貧困対策という現実があります。その地域において障がい児支援の必要性を理解していただくことが大きな前進に繋がると思い、今回ご報告しているカンボジアの方の日本の障がい児者支援の視察を実行しました。ここまでにとどり着いた要因として、他メンバーの歯科支援・救急セミナー・小学校継続支援における実績が繋がったものと確信しています。

メンバー全員の力と、正会員・賛助会員そして寄付して下さった皆様、カンボジア支援活動に同行し実際に手を貸して下さった皆様のおかげで、更に大きな一歩が進めます。

活動を開始した時から始まった、『継続』の責任を重く抱きつつ、カンボジア王国シェムリアップ州において、NPO法人スロラニユプロジェクトという小さな小さな団体が、大きな責任を持って、目の前の一人を救うことに力を注ぎ続けたいと思います。

分かる算数をめざして ～スロラニユ小学校で学ぶすべての子に～

元教師 須藤徳子



スロラニユ小学校で学ぶ、どの子どももすらすらと計算ができるようになることは、大人になってもきっと役に立つ。そのために、年に2回の現地訪問で何ができるか考えた。

2月の現地活動の時は、日曜日の運動会の後で学年もバラバラ、何人授業に参加するかも分からない状態だったので、「楽しく、教え合える」ことを目標に、見本を見て同じ図形を描くプリントを中心に行った。

今回は、月曜日の授業時間をいただいて、1年生と2年生の算数を一時間ずつさせてもらうことになった。以前、2年生の算数の授業参観をした時、あまりにも繰り上がりの足し算が出来ていなかったの、計算がすらすらできるように支援したいと思った。

まず、出発前にカンボジアから来ている留学生に会って、繰り上がりのある足し算・繰り下がりのある引き算をカンボジアの小学校でどんなふうに教えてもらったか聞いてみた。どんなふうに教えてもらったかは覚えては無く、優秀な学生なので、なんとなくできるようになったようだった。

日本では「1と9、2と8、3と7…という10の合成分解を1年生で徹底して覚えさせる」と言う。「それは、良いですね。カンボジアではしないので、是非やって下さい」と言われた。1年生は、まだアラビア数字を習わずカンボジア文字の数字しか分からないというので、カンボジア数字の物とアラビア数字の物の2種類の合成分解の表を作って持って行った。

១២៣៤៥៦៧៨៩០ このカンボジア数字は、我々には読めないの、1年生の授業では、大変苦労した。出来るだけ担任の先生にやってもらう様に通訳のピッチさんを通してお願いした。普段授業をするのは担任だから…「10は1と9（モエ ヌン プラムブーオン）2と8（ピー ヌン プラムバイ）…」と表を見ながら全員で何度も言う、一人で言う。一人ではなかなか言えない。「これは、算数の勉強でとっても大事なので、家に帰って何度も練習してね」と伝え担任には、表を教室に貼って算数の授業の時に毎回唱えさせてもらうようお願いした。

次に、9+3のさくらんぼ計算。「3を1と2に分けて、9+1で10、10と2で12」というやり方だ。前日にラッキーモールの本屋で1・2年の算数の本を買ったら、そのやり方が載っていた！担任にもそれを見せた。このやり方は、日本から年に2回しか来ない私達の押し付けではなく、カンボジアでもこうやって教えると良いと

10
1 + 9
2 + 8
3 + 7
4 + 6
5 + 5
6 + 4
7 + 3
8 + 2
9 + 1

ちゃんと書いているでしょうと言う意味で、あのテキストを見つけたのは良かった。出来れば現地の教育課程に沿って担任が納得して指導をして欲しいから…

$$\begin{array}{c} 9 + 3 = 1 \\ \textcircled{1} \quad \textcircled{2} \end{array}$$

ここで9を見たらあと1で10になるとすぐに分かることが大事。それができると、9+8も8を1と7に分ければいいので、足りない手の指を使わなくてもできるようになる。

先日、カンボジアで日本語を教えていた方に会った。日本語学校に来ている青年たちも簡単な計算ができないと驚いていた。（電卓が使えれば問題はないとはいってもやっぱりこれぐらいはね…）

今回は、繰り下がりのある引き算のさくらんぼ計算をしようと思う。そして、スロラニユ小学校の本校であるドントロー小学校の算数の授業参観をさせてもらいたいと思っている。ドントロー小学校では、どのようにして繰り上がりのある足し算や繰り下がりのある引き算を教えているのか知りたいから。スロラニユ小学校の児童が、4年生になってドントロー小学校に行った時、学習の遅れで困っていないか気になるところだ。分校であるスロラニユ小学校と本校であるドントロー小学校の連携が出来ていると思うが…将来、スロラニユ小学校で算数の勉強をした児童が、ドントロー小学校の児童に計算の仕方を教えてあげられるぐらい担任と協力して「どの子どもも分かる算数」をめざして指導していきたい。



目新しいこと ～2017.7の活動を終えて～

スロラニユ歯科部 歯科医師 大森茂樹



定期的にカンボジアに行くようになって4年目、もうすっかり行くのが当たり前。それでも毎回違うテーマがあって、違うメンバーなので、毎回目新しいのです。目新しいことがあると、ワクワクします。そこで、今回の歯科部のテーマは、3つ。

1つ目は、はじめて歯科衛生士が参加してくれるので、彼女を生かすこと。2つ目は、はじめて行く師範学校で教師になるカンボジア人に子どもの歯を守る重要性を認識してもらうこと。3つ目ははじめてカンボジア人歯科医と交流し、情報交換すること。

歯科部としてこれだけは、ということを確認して、出発です。

はじめての歯科衛生士



現地でのブラッシング指導をしていて、当初から、ここは歯科衛生士の活躍の場だなと。だから、歯科衛生士の参加を待ち望んでいたのが、ついに実現。今回参加してくれたのは、勤務医時代に同じ職場で働いたことのあるベテラン歯科衛生士、杉本さん。渡航前に2回ほど会って、打ち合わせを。と言っても、歯みがき啓発用のロンタくんというパペットを渡して、あとはやりたいことをやってみて、と伝えただけ。それでもちゃんと期待以上に応えてくれました。子どもたちは興味津々で、きっと記憶に残ったことでしょう。小学校の教室で、孤児院で、そして村で。紙芝居とロンタくんの二本立てで行ったブラッシング指導は、これからのスタンダードになるかもしれません。

これから教師になる人たちへ

現地の子どもたちに直接ブラッシング指導をして、歯の大切さを伝えるだけでなく、子どもたちの歯を守るという役目を担うべき人に、そのことを理解してもらうことの大切さを感じていました。そのほうが遥かに合理的で、持続的。

子どもの歯を守るのは大人の責任です、ということ、伝えたい。今回、師範学校を訪問する機会を得たので、これから教師になる学生さんに伝えたい、と強く思ったわけです。

そこで救急講習の講師である高橋隊長にお願いして、講習を2部制にしてもらい、半分の学生が小学生のブラッシング指導に参加し、手伝ってもらうことにしました。ブラッシング指導の現場を見て、聞いて、記憶に留めてもらえたら。

一緒に紙芝居やパペットを見た後、学生さんたちは子どもたちの歯に染色液を塗って、口の中をよく観察。もちろん一緒にブラッシングも手伝ってもらって上手にハブラシを動かせない子に対するアドバイス。さすが教師を志す人たち、積極的で感心しました。

最後に、教師になったら子どもたちの歯を守ってあげて下さい、とお願いして、締めくくりました。心に残ってくれますように。

クン・ラピサル先生

通訳のパンナさんにカンボジア人の歯科医を紹介してほしいと頼んで、会わせてもらうことに。これもかねてからの希望で、今回



実現できました。

クン・ラビサル先生は広島大学に留学経験があり、日本語も少しわかるということで、すぐに友だちになれました。プノンペンの大学にインストラクターとして毎週指導に行かれているというだけあって、きちんとした仕事をしておられる。ユニットはタイ製の旧式でしたが、ハンドピースは患者毎に滅菌をしているようです。治療はアシスタントなし、ほぼ自分一人で行うのでたいへんですと苦笑。診察は平均的に午前4人、午後4人程度だそう。カンボジアの歯科医療のレベルは決して高くはないでしょうが、情報は容易に手に入る時代。これからどんどん日本に近づくでしょう。でも、それが村の人たちに提供されるかという別です。やはり日本の国民皆保険制度のありがたさを痛感します。この保険制度については崩壊寸前だとか、歯科について言えば診療報酬が低すぎるために日本の歯科医のレベルが上がらないとか、マイナス面を語られることもあるけれど、この制度のおかげで貧しくても医療が受けられるのです。すばらしい制度です。これは国の施策なので、政治の力。残念ながら、カンボジア国民の歯の健康まで政策が行き届くには、まだまだ時間がかかりそうです。だからこそ、微力でも地道に、啓発活動を続けようと思います。

目新しいことがあると、意欲がアップして、さあやるぞ、という気持ちになります。継続のためには、何かしら、目新しいことを。次は何かな。

カンボジア支援活動の感想 ～2017年7月支援活動の振り返り～ 歯科衛生士 杉本葉子



以前から、大森先生のブログなどを見ていましたので、カンボジアにはいつかは行きたいと思っていました。

大森先生の書かれていたことを見たとき、活動の場は本当に困った人たちにこそ、やりがいがあると書かれていたのを見て、私もかなり心動かされました。それで今回は日にちも合いましたので、初めて参加させていただきました。

行く前からすごく楽しみでしたが、ただ皆さんの足手まといにならないようにと心がけていました。先生からの情報でわかっているつもりでしたが、行って改めて知ることがたくさんありました。

歯磨き指導は普段の仕事ですが、言葉が通じないところでの指導は初めてでした。日常は大人相手ですので、子供相手の指導は久々に不安でもありましたが、今まで皆さんがしてこられていた活動での下地ができていて、子供たちもわかってくれたので私も楽しくできました。

やって感じたことは、もっと障害の子たちへのケアをできればよかったなと思いました。歯磨きはお母さんや子供たちの協力もあり何とかさせてもらえました。でも、緊張から口が開けにくいのであれば、体をほぐしてあげることや、口周辺だけではなく、体の状態をもっとみてあげればよかったなと後から思いました。今度するときには、子供さんが楽に歯磨きを受けてもらえるように、姿勢なり方法を考えたほうが良いと感じました。

歯磨きが大変なことで、しんどいことだと思われると長続きはしないし、日常お母さんがするときにも嫌がってしまうかもしれません。本人も楽で、お母さんも歯磨きが簡単だということを知ってほしいです。私たちが行ったときにだけする歯磨きだけでは虫歯予防はできません。お母さんたちに毎日してもらえることが一番の虫歯予防だと思います。

他に小学校での指導をして感じたのは、永久歯の虫歯の多いこと。今のカンボジアの歯科事情では、虫歯になると抜いてしまうことが多いと聞きました。成人した頃には、何本か歯が無いというのが当たり前になってしまいそうです。だから、もっと虫歯予防に力を入れたいと思いました。

今回は歯磨きの導入ということで、ロンタくんを使いましたが、今度はもうちょっと進めて、虫歯の成り立ちや、歯の大事さを伝えたほうが良いのではないのでしょうか？子供にも歯磨き指導は大事ですが、お母さんたちにもわかってもらえればもっといいと思いました。小学校でお母さんたちに指導というのは無理だと思うので、お母さんたちにも少し内容がわかれば良いかなと思います。実際に子供の口の中を見てもらい、自分の子供の口のことをわかってもらいたいです。口の中の状態は体にも影響を及ぼすということもわかってもらいたいです。

今回初めてだったという師範学校に行ったのもいい経験でした。教育者になる人たちは、もちろん勉強を教えることも大事ですが、どうしたら健康に過ごせるかという、最も人間で大事なことを教えてあげられる教育者になってもらいたいです。

後、カンボジアの歯科医院に行かせてもらったのもよかったです。最初は先生だけが行くことになっていたのが、急遽私も行かせてもらうことになり貴重な経験ができました。

歯科事情はまだ予防に力が入っていないこと。だから歯科衛生士という職業もなく、昔の日本のように虫歯の多い子供たちが増えて



いるようです。だから、せめて私たちが行ったときに歯磨き習慣をつけることと、磨いてあげて、歯磨きをすれば気持ちがいいということを知ってもらえたらいいなと思います。そのためにもマンパワーが必要です。歯科衛生士はもちろん、歯科関係者の参加がもっとあればいいです。

最後にもっと驚いたことは、フェイスブックでの現地からのパンナさんからの報告でした。活動のその後もわかるし、今のみんなの状況もわかるし、ただただ凄い一言です。

「継続は力なり」という言葉があるので、また、時間の都合があれば、ぜひ参加させていただきたいと強く感じました。

2017年7月救命講習活動報告 ～2017.7の活動を終えて～ 救急救命士 高橋茂樹



【7月15日 ドントロー中学校一年生48名への救命講習】

7月度は第2月で受講できなかった一年生への講習で、同行の猪狩君がインストラクターとして実施した。

毎回感じるころではあるが、ドントロー中学校の生徒は素直で暑い教室の中、50分という長い中でも集中力も切れず、最後まで真剣に受講してもらった。次回も新一年生への救命講習を継続的に実施し命の大切さを学んでもらいたい。

【7月16日 孤児院年長者への講習】



メイ オウダム 18歳 マイミ プラットナ 17歳 チェン チャ 14歳

本来の目標でもある、年長者のインストラクター養成として、今回は3名の候補を選任した。

実技指導方法も必要であるが、まずは解剖生理から心肺蘇生の必要性も含めて指導をしていかなければならない。今回は前段のことも踏まえ、インストラクターとなるべく年長者への指導となった。3名の候補者に入所者への指導を側につきながら進めていった。恥じらいもあるが、指導内容や方法は別にして、言葉の壁が無いぶんだけ良く伝わっていた。今後も彼ら3名を軸とした講習トレーニングを兼ねて指導にあたって行く。

【7月17日 師範学校学生40名】

教師を目指す学生40名に対しての救命講習。ブラッシング指導と並行して20名ずつに分かれ、講習を実施した。教師を目指す若者らしく、命の大切さ、応急処置の大切さや実技に関しても、戸惑いもなく、良く理解されていた。将来、教職を目指す彼らが卒業後赴任先の学校で、命の大切さや、応急処置など、緊急時少しでも役に立って貰えればと。今後も継続して救命講習を実施して行きたい。

【7月18日 アブサラ機構職員40名】

今回で2回目となる職員への救命講習、前回の指導内容をふまえ、担当者との協議した結果、外傷等の処置をもう少し取り入れて欲しいとの要望があり、講習時間を2時間半とした。心肺蘇生法はもとより、彼らがいま直面している、遺跡群での観光客の不慮の事故に対応すべく、応急処置方法と知識をも含めた講習となった。時間的にも余裕があり、彼らが持っている外傷セット以外に、周りにあるもので応急的に処置ができる指導など講習に取り入れ指導した。

最後に質問の時間では、職員からの質疑も沢山あり、意識の高さを感じた。今後も継続的に残りの職員へ講習を実施していければと考える。

2017年7月の主なカンボジア支援活動報告 ～2017年7月15日～7月18日～

7/15 (土)

○午前はスロラニユ小学校にて約60名の生徒達に絵画教室とブラッシング指導に取り組みました。この度は大阪を拠点にグラフィックデザイナーで子ども絵画教室キッズアートランドを主宰されている馬場多絵氏と馬場氏が代表を務めるGOFARBANKの皆様が活動に参加していただきスロラニユ小学校では当団体では取り組んだことのない12色の絵の具を使用して、真っ白な紙に絵を描いたり、描けない子どもにはお化粧のパフや消しゴムでスタンプングしたりして各々の個性を最大限に発揮する絵画教室を実施していただきました。またその真っ白な紙は組み立てると箱になるというアイデアでGOFARBANKの皆様が持参されたプレゼントを箱に詰めて子ども達に渡されていました。



午後からは2012年に建設したスロラニユ小学校の子ども達が進学したら通うことになるドントロー中学校に訪問。中学1年生48名を対象に毎年恒例の救急救命講習とブラッシング指導を行いました。

7/16 (日)

○障がい児デイサービスをシェムリアップ孤児院センターで取り組みました。今回は8名の障害のある子どもとその保護者やきょうだい児が参加してくれました。設定保育やダンス、パペットを使った歯みがき啓発などを行い、障がいのある子どもを育てているお母様から子育てについての相談をうけました。全ての悩みを解決することは出来ませんが、我々のできる範囲で今後も肅々と寄り添っていききたいと思います。



7/17 (月)

○シェムリアップにある師範学校に訪問。未来の小学校教諭に対して救急救命講習を実施。また師範学校内に小学校が併設されており、小学1年生を対象に日本人歯科医師の指導のもと、ブラッシング指導を未来の小学校教諭と一緒に取り組みました。

我々の活動を通して、未来の先生方が子ども達に命の大切さや歯に関する正しい知識を教えていただけたらと思います。

7/18 (火)

○活動最終日は前回に引き続き遺跡を管轄している政府機関アプサラ機構の約40名のスタッフを対象とした救急救命講習に取り組みました。今回も心肺蘇生法を中心に熱中症や観光客の転落等における怪我への応急処置を学んでいただきました。講習終了後、次回も実施してほしいと管理者から嬉しい言葉をいただき、日本の救急救命士二人は講習後、スタッフから写真撮影攻めにあっていました。

またアプサラ機構での救急救命講習がなんと！地元のメディアで紹介されました。アプサラ機構のスタッフは総勢429名とのこと。全スタッフに救急救命講習を受けていただきたいと切に願います。



日本での主な活動報告

平成29年9月13日NPO法人多文化センターまんまるあかし主催の「第1回ワールドフェスタあかし」～今年は南米から！～になぜかカンボジア支援団体のスロラニユプロジェクトが出店させていただきました。素敵なステージに会場された皆様が釘付け状態で、なかなかカンボジアで障がい児支援を行なっている我々のブースでの活動内容を知っていただくことは難しかったですが、これからもたくさんの方々に支援していただけるようにイベントにも参加していききたいと思います！

平成29年10月20日神戸市婦人会館にて神戸ユニバーサル研究会が開催されます。スロラニユプロジェクトの活動紹介をさせていただきます。障がい児者支援に関わっておられる方が多く、皆様真剣に我々が見たカンボジアの障がい児のおかれている現状や支援活動を興味深く聞いていただき、今後の活動への援助に結びつくような時間を過ごさせていただきました。

カンボジア人障がい児者支援事業所視察 平成29年10月23日～10月25日



この度、三木みどりロータリークラブ様のご尽力によりカンボジア王国シェムリアップ州の福祉・教育現場に携わる方々（シェムリアップ州福祉局長のマウ・オー氏、シェムリアップ州最大のマンモス校で6,000人以上の子ども達が在籍しているワットポー小学校のブン・キムチェン校長、シェムリアップ州立孤児院センター、メノン・ソクンセンター長、スロラニユ小学校ベッチ・サラット校長他）が10月22日から26日までの間、来日されました。目的はシェムリアップ州で活動する当団体の障がい児支援に一人でも多くのカンボジアの方にその必要性を知っていただき、支援活動に賛同していただくことです。

あいにく初日は姫路城観光を予定していましたが台風の影響で観光が出来ず、日本ではほぼ障がい児者支援事業所を視察するのみの行程となってしまいました。折角、日本に来て

いただいたのに観光にも行けず、大変申し訳ない気持ちでした。その上、視察初日は車のトラブルでお昼の時間帯に足止めをくらい、しっかりとした昼食をとることが出来ない中、真摯に障がい児者支援事業所や教育現場を視察するカンボジア人の方々の姿勢、意識の高さに脱帽でした。10月23日(月)は明石市立ゆりかご園からはじまり、明石市立養護学校、社会福祉法人博由社障害者支援施設博由園、明石市立林小学校(特別支援級)、と視察して最後は、三木みどりロータリークラブ様の例会に出席させていただき、この度の

障がい児者支援事業所視察の重要性を飯塚代表からロータリークラブの皆様にお伝えさせていただきました。また視察にご同行いただいた三木みどりロータリークラブ会長の松尾様からはカンボジア人と一緒に一日を過ごしたからこそ分かる来日したカンボジア人のモチベーションの高さやカンボジアで障がい児支援を行なう上で今回のプロジェクトの必要性を会員の皆様にご報告していただきました。シェムリアップ州でカンボジア人主体の障がい児支援の可能性を感じる事が出来た一日でした。



10月24日(火)は兵庫県立いなみ野特別支援学校と三木市立障害者総合支援センターはばたきの丘、社会福祉法人三喜会福祉工場あじさいに視察に行かせていただきました。いなみ野特別支援学校では障害のある学生達に個々に応じた日常生活に必要なスキル向上にむけた取り組みと就労を目標としたカリキュラムを専門性に長けた先生方が情熱を持って関わられていました。また、福祉工場あじさいでは大規模な機械を導入して、障害があっても十分な作業に取り組むことが出来る環境が整備されている様子をカンボジア人は驚きつつ、持参したスマートフォンのカメラに就労支援の現状を収めていました。この日の晩はホテルクラウンパレス神戸にて常日頃からスロラニユプロジェクトを支援していただいているたくさんの方々と三木みどりロータリークラブの皆様にもご出席いただきスロラニユプロジェクト活動報告会と親睦会を行いました。

この度の障がい児者支援事業所見学では、カンボジア人はもちろんのこと、ご同行されている三木みどりロータリークラブの松尾会長や間瀬氏も大変刺激を受けて頂いた、ご様子で障がい福祉の現場で働くスタッフの方々の姿にカンボジア人と同じく感銘を受けておられました。

カンボジア王国シェムリアップ州での障がい福祉の発展を目指すとともに日本でも、より多くの方々に障がいに対する理解を深めていただけることが「誰もが住みやすい社会」に近づくのだと感じます。



10月25日(水)は、日本でのカンボジア視察団、活動最終日でした。

最終日はスロラニユプロジェクトの飯塚代表が施設長を務めている明石市立あおぞら園と、同じくスロラニユプロジェクトの理事である石倉が代表を務めているくららべかりー、そして飯塚代表が常務理事を務めている社会福祉法人三田谷治療教育院(法人内のグループホーム、就労事業所、児童入所施設)に視察に行きました。

日本最後の夜は神戸市長田区のタイ料理店「コップンカフェ」で破格の値段で最高のおもてなしをしていただき、来日したカンボジアの皆様は大満足で日本での視察活動を終えることが出来ました。

今回の視察で6000人の生徒が通うワットポー小学校の校長先生が



らは障がい児教育に大変興味を示され、シェムリアップ州福祉局局长も日本の社会保障や障がい児支援、障がい者就労支援に感心されていました。

シェムリアップでの障がい福祉実現にはまだまだ課題も山積みですが、今回の目的である、現地に関わるカンボジア人の方々と我々の目指す理念の共有ということでは目的が達成されたと思います。

全日程にご同行していただきました、三木みどりロータリークラブの皆様、本当にありがとうございました。
当団体が法人格になったときの一番の目的である「カンボジアで障がいのある子ども達への支援活動」に今回の経験をしっかりと生かして2月の現地活動に取り組んでいきたいと思っております！



今回、10月にカンボジアの方々が日本の障害児者支援の視察に来てくださったことが、私たちの活動の大きな節目になります。障がい児支援より貧困対策を優先せざるを得ない状況の国において、まず、障害のある子ども達の教育を受ける権利を含めた支援の必要性を、現地の方に理解していただくことが一歩でした。その目的は、今回の視察において、期待以上の成果があったと実感しています。シェムリアップ州の福祉局トップの方、シェムリアップで最大規模の小中学校校長など、ある程度影響力のある方達が、自分の目で見て感動し、必要性を実感してくださったこと。障害があっても、しっかり働いて自立していることなども感心されていました。

いなみの特別支援学校、明石養護学校、林小学校そしてその他事業所の皆様が快く見学を承諾して下り、丁寧に説明していただいたおかげと心から感謝しています。又、視察にかかる費用の大半を寄付してくださった三木みどりロータリークラブ様のご支援がなければ実現しませんでした。10月22日～26日までの5日間はあちこち移動し、皆さんに失礼がないかなど神経を使う5日間でしたが、カンボジアの方達、そして一緒に同行して下さった三木みどりロータリークラブの松尾会長や間瀬様達との心のふれあいが、大変心地よかったことが思い出されます。このような皆様のお心を無駄にしないために、今回2月9日からの現地活動では療育の専門家が数名同行し、障がい児支援の手立てを構築するためのプロジェクトを始める予定です。まずは、スロラニユ小学校の知的に障害がある4名の子どもに対する検査に始まり、師範学校の生徒(将来の教師)への障害の理解を深める学習会の方法を探ること。スロラニユが支援している村の障がい児達の療育方法の検討など、小さな針の穴かもしれませんが、しっかり開けてこようと思っております。2月9日からの渡航までに何度か、療育の専門家達との打ち合わせを実施し、「どのような検査用具が必要か」「知育玩具は何か良いか」「師範学校の生徒への障がい児者理解度を測るためのアンケートは・・・」などなど話は尽きません。たくさんの方のスロラニユ(愛する)を持って、2月活動も精一杯頑張るつもりです。(飯塚)



スロラニユ小学校の障がい児と

明石市立あおぞら園に在籍して
いたお子様のお父様が明石市の情報サイト立ち上げられました。その名も「明石ハッピースパイラル」。明石にこんないいところがある！こんな人が働いている等、明石のことを大切に想ってもらえるきっかけにしたい思いで情報を発信されています。スロラニユプロジェクトの代表の飯塚も有り難いことにこの度、インタビューを受け、そのときの記事が掲載されています。カンボジア支援の思いや日本における発達障害、自閉症の子ども達への思いを語らせていただいています。ご興味のある方はぜひ「明石ハッピースパイラル」と検索してみてください♪



2017年11月、スロラニユ小学校新学期！
スロラニユ小学校は幼稚部21人、2年生23人、3年生は22人で、新学期を迎えました。新1年生には制服とカバンを皆様からいただいた支援金で購入させていただき、スロラニユプロジェクトのカンボジア人スタッフのパンナさんからプレゼントしました。2012年から開校した子ども達の「命」を守る小さな小学校は今日も子ども達の笑顔に包まれています。



カンボジア人日本障がい児者支援事業所視察の様が新聞に掲載されました。神戸新聞明石版(左) 神戸新聞三木版(右)

2012年、当団体が建てたスロラニユ小学校にひときわ大きな男の子が小学2年生として通学していました。男の子の名前はパニャン君。年齢は当時すでに17才くらいで知的に障がいがあるパニャン君は、やはり小学校の勉強についていくことが出来ずに1年も持たず不登校になってしまいました。日本で住んでいたなら特別支援学校に通学して、専門的な教育を受けて、就労出来ていたかもしれませんが、カンボジアの村に住むパニャン君には、教育を受ける権利も保障されずに、現在は家で簡単なお手伝いをして暮らしています。この度、2017年7月にコムルー村に訪れた際、「障がい児デイサービスでお手伝い(主に荷物運び)をしてもらえないか？」と聞いてみたところ、か細い声ではありましたが「したい」と自らの意思を我々に伝え快く引き受けてくれました。障がい児デイサービスでは我々の指示のもと、ペットボトルのケースや、支援に必要な備品、お弁当などをしっかりと運んでくれました。スロラニユ小学校での絵画教室や運動会などで我々のことは知っていても、やはり異国の人間と数時間ではありますが、一緒に過ごすことは緊張したと思います。しかし与えられる仕事があり、取り組むことで必ず評価してくれる環境はパニャン君にとって居心地がよくなったのか表情も穏やかに過ごしていました。障がい児デイサービス終了後、本人には働いた対価として少しのお金を渡し、そのまま市場に行って買物支援を行ないました。初めての買物だったので、手持ちのお金より少々高い玩具を購入したので今回は飯塚代表が援助して、本人の好きな物を購入しました。自分の存在を認めてくれる人がいることは大切ですが、自分自身が価値ある存在と認められることが一番大切であると日本で障がい児者支援に取り組んで感じることで。2018年2月の障がい児デイサービスもパニャン君の出番です♪(服部)



活動に賛同していただけた方に、スロラニユプロジェクトの会員になっていただき、その会費を大切に支援活動費として使わせていただきます。ご協力お願い致します。

- | 会員の種類 | 個人 | 団体 |
|-------|--------------|---------------|
| 正会員 | 1口1000円(月会費) | 1口10000円(月会費) |
| 賛助会員 | 1口1000円(年会費) | 1口5000円(年会費) |
- ※賛助会員(個人)の年会費につきましては3口からお願いします。

〇銀行振込
みなと銀行支店：明舞支店(普) 口座名：特定非営利活動法人スロラニユプロジェクト理事長飯塚由美子 口座番号：3895462
〇郵便振替
加入者名：特定非営利活動法人スロラニユプロジェクト 口座記号番号：00980-1-172480
※お願い 恐れ入りますが、手数料についてはご負担をお願いします。

